

善永寺将来活動計画

2014(平成 26)年 10 月 1 日

善永寺 住職 高輪真澄

善永寺がここ萩中の地に移転してから 90 年、太平洋戦争が終わってから 70 年と時はどんどん過ぎていきました。私たちの生活様式も家族意識もどんどん変わっていきます。そこでこれから 100 年先を見据え、善永寺が何をすればいいのか考えてみました。

現状把握と問題点

現代の日本人は宗教離れが進んでいると言われていています。葬式の簡素化、墓地の意識、生きる価値の喪失、自殺の増加。これらのことはいろいろな事に起因していると思われる。少子化、単婚小家族化、「家」意識の低下、儀式の簡素化など私たちの生活が多様化していることから発しているようです。そしてこれに伴い「こころ」の荒廃も進んでいるのが現状のようです。

現在求められているお寺の役割

こうした現状からお寺には信仰布教の場はもちろんですが、「こころのふるさと」として、「ほっと」する場として、「還る家」としてお寺の役割が見直されてきています。

善永寺の現状

善永寺は現在地域では一番人が集まってくる寺院です。朝 7 時のおあさじから始まり、幼稚園や墓参り、バレー教室にスカウトなど夜 10 時頃まで出入りしています。でもそれが直接教化には結びついていないとよく言われています。寺院活動としてもおあさじの参加者が少なくなってきました。また常例法座も同様です。仏教婦人会は活動できていません。施設は老朽化が目立っています。

善永寺 100 年計画

そこで善永寺はこれから 100 年この地で活動するに当たり、将来を展望し対応していきたいと思えます。

これからの時代、社会はますます便利になっていくことでしょう。ネット社会が進み人と人とのコミュニケーションが機械を通してのものになり、人は孤独になっていきます。また映像社会が進むと、現在でもそうですが、耳や文字から得た情報だけではイメージを持つことができない人が増えていきます。こうして心の荒廃も進んでいくことでしょう。そこで親鸞聖人の教えが大切になります。「こんな私だからこそ、阿弥陀如来は一番先に救ってくださる。」「私は一人じゃない阿弥陀様といつも一緒」という教えが私たちを救ってくれるでしょう。

そこで善永寺は、人々が実際に会って、目を見て話をする場。コミュニケーションを図る場として存在していかなければなりません。みんなの悩みや生き方を考える場としてお

寺が有るのです。そして「ほっと」する事のできる場所にならなければなりません。親鸞さまの教えを人々に伝える場として善永寺を考えています。

また今まで善永寺は幼稚園やスカウト活動に力を入れてきました。それは幼い頃から幸せな人生を送ることができるように、宗教を生活の基礎として生きて行けるように教化活動をしていました。それがいま65年たって成果を見せています。これからも新しい世代につなげていきたいと思えます。

そのために善永寺として次の事柄を行おうと思えます。

・場の提供

- ・信仰・布教の場としてふさわしい本堂(荘厳な雰囲気)。
- ・伝統的な落ち着きをもつ建物。災害にも強い建物へ。
- ・活動を活性化するための太子ホール。

いろいろな活動の拠点となる施設。幼児から高齢者まで使いやすい建物へ。
葬式や法事にも活用できる物へ

- ・みんなが幸せになるための地域コミュニケーションの場

ボーイスカウト・ガールスカウト・幼稚園・保護者・子育て支援・学習・交流

- ・ほっとする場の提供

緑、庭園、池など

- ・許せば寺域を拡大して活動しやすい場を広げる。

・仲間作りのできる善永寺

信仰によって結ばれた仲間は、強い結びつきが有ります。そんな仲間を作りみんなが幸せになることのできるお寺になっていきたいと思えます。

・しっかり管理された墓地

心のよりどころとしての墓地を今まで以上に管理運営する。

運営管理費の徴収、清掃、排水、通路整備等

・新時代への対応のできる寺へ

ホームページ、メールなど

新しい悩みへの対応など情報を集め、発信できる寺に。

以上列記してみました。まだまだ有るでしょう。これから100年先は何が起きるか全く予想つきませんが、近いところでは大きな地震も予想されます。それらに耐えながらみんなの叡智を結集して善永寺をみんなの心のふるさとにしていければと考えています。